

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：房総近海におけるカツオの漁場形成と水温・クロロフィルの分布			
<p>[要約] カツオ漁場は海面水温 19～21℃で水温フロントから南東～南方向 20 マイル未満の海域に形成されやすく、このような海域では水色（クロロフィル濃度）は 0.1～0.4 μg/L の出現頻度が多い。また、人工衛星データから、これらに該当する海域を自動的に可視化し、図化する技術を開発した。</p>			
フリーワード カツオ、水温、クロロフィル濃度、水温フロント、人工衛星データ			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	資源研究室
	協力機関	-	
実施期間	2019 年度～2021 年度		

[目的及び背景]

本県において、春季に曳縄や竿釣りにより漁獲されるカツオは重要な漁獲対象になっているが、その資源量は近年減少傾向にあり、漁場を適切に推定することが重要になっている。これまでの研究や経験則から、カツオは水温 19℃以上で、水色が澄んでいる海域に漁場が形成されやすいと言われているが、人工衛星はこれらを広域にわたって観測しており有用である。

そこで、人工衛星の観測データから漁場形成に適する水温、水色条件を明らかにするとともに、その情報を提供することにより漁場探索の効率化を図る。

[成果内容]

- 1 カツオの漁場は水温 19～21℃で、水温フロント内及びフロントから南東～南へ 20 マイル未満の海域で形成されやすい。
- 2 このような海域のクロロフィル濃度は 0.1～0.4 μg/L の出現頻度が多い。
- 3 上記 1、2 の海域を重ね合わせて表示することにより、漁場形成に適した海域を可視化し、リアルタイムで図化する技術を開発した。

[留意事項]

房総近海にカツオが来遊しているときに、漁場が形成されやすい海域を推定する技術である。

[普及対象地域]

外房地域、内房地域

[行政上の措置]

なし

[普及状況]

情報提供するためのホームページの原型は完成済み。細部を調整したうえで、今後当研究センターのホームページにて情報提供する。

[成果の概要]

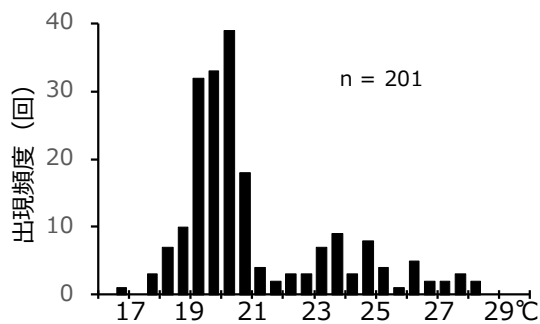


図1 漁場水温の出現頻度 (2019年2月~2020年9月)

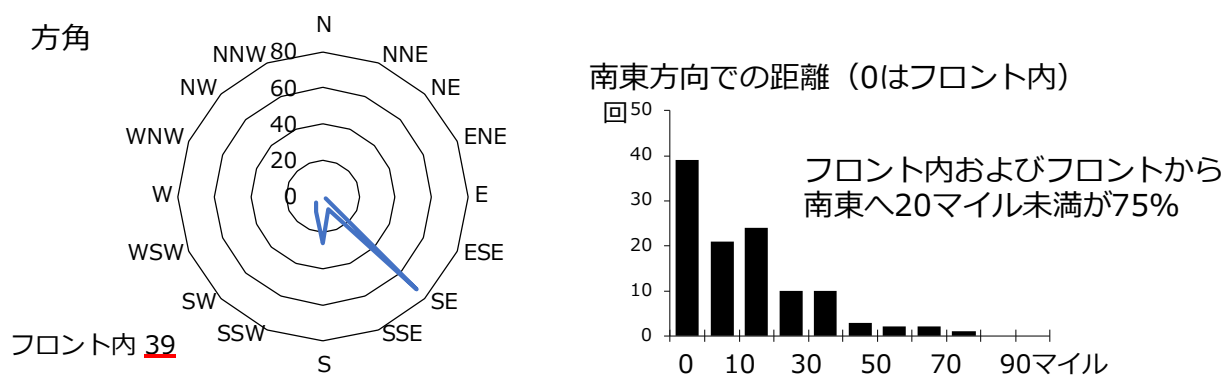


図2 漁場と水温フロントとの位置関係 (2019年2月~2020年9月)

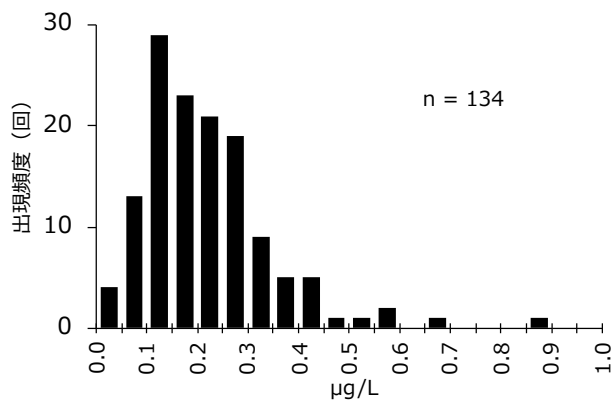


図3 漁場のクロロフィル濃度特性

[発表及び関連文献]

なし

[その他]

なし